

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

平成27年度病虫害発生予報第3号

平成27年6月2日  
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ ニカメイガ	並 — — — —	並 やや少 並 少 並
ジャガイモ	疫病	並	やや少
モモ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— 並 — 並 やや遅 —	並 やや少 並 やや少 やや少 並
ブドウ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ	並 並 並 並	やや少 並 やや少 やや少
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	— — —	やや少 やや少 やや少
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— やや遅 並	やや少 やや少 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	やや遅 —	並 やや少
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	<b>やや多</b> 並 並
キク	白さび病 ナミハダニ	やや遅 やや遅	少 並

## 1. 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 中北部地帯においては、育苗箱施用剤による防除が普及しており、育苗箱施用剤の残効は40～60日とされている。5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

イ. 3か月予報によると、7、8月の気温は低く、降水量は平年並か多いとされている。この時期の低温多雨はいもち病の発生を助長する条件となる。県内の一部地域でQoI剤に対して耐性を示すイネいもち病の発生が確認されているので、QoI剤を使用したにもかかわらず、葉いもちが発生した場合は、穂いもちの多発生にそなえて直ちに他系統の薬剤を用いて防除する（平成25年度植物防疫情報第2号、第6号参照）。

#### (2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ（第1世代成虫） やや少  
縞葉枯病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は59頭であり、平年（116.5頭）よりやや少なかった。

イ. 縞葉枯病については、媒介虫であるヒメトビウンカの県予察圃場における保毒虫率が9.5%と平成26年までの過去10年間（平成16～20年は欠測）の平均保毒虫率（6.3%）よりやや高いが、虫の発生量が少ないことから平年並と考えられる。

#### (3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は1頭であり、平年（26.8頭）より少なかった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

#### (4) ニカメイガ（越冬世代成虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月5半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

### (ジャガイモ)

#### (1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 5月22日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。
- イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。
- 防除上の参考事項
  - ア. 発生圃場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## 2. 果 樹

### (モ モ)

#### (1) 灰星病 (早生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月7日の巡回調査における花腐れの発生圃場率は17.8%で平年(8.7%)より高く、5月21日の巡回調査における芽枯れ、枝病斑の発生量は平年並であることから、幼果への感染量は平年よりやや多いと考えられる。
- イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件となる。

#### (2) 黒星病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

- ア. モモの生育は平年並～やや早く推移している。
- イ. 5月21日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年並であった。
- ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日(果実生長第2期以降は20日)とされている。5月の降水量は平年より少なかったため、幼果への感染は平年より少ないと考えられる。

#### (3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月21日の巡回調査によると、発生圃場率は10.7%で平年(9.7%)並であった。
- イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を特に助長する条件ではない。
- ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生助長要因である「昨年の8月中旬の発生圃場数」は少ない(岡山県病害虫防除所調査)。

#### (4) モモハモグリガ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年(21.0頭)より少なかった。
- イ. 5月20日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(9.6%)より低かった。
- ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

#### (5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は7頭で、平年

並(3.7頭)であった。

イ. 5月20日の巡回調査によると、心折れの発生圃場率は0%で平年(4.6%)より低かった。

ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

#### (6) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は7頭で、平年(36.1頭)より少なかった。フェロモントラップでの誘殺数は2頭で、平年(316.9頭)より少なかった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

ウ. 病害虫防除員からの報告によると、県南部の一部圃場でカメムシ類の発生が認められる。

#### (ブドウ)

##### (1) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年よりやや早く推移している。

イ. 県予察圃場のベリーA(無被覆栽培)において、5月28日まで発生を認めていない(平年:6月5日)。

ウ. 5月21日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

エ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

##### (2) うどんこ病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年よりやや早く推移している。

イ. 5月の日照時間は平年並で、本病の発生を助長する気象条件ではない。

ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件となる。

##### (3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)はほぼ平年並よりやや早く推移している。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を抑制する条件となる。

##### (4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、被害発生圃場率は0%で、平年(7.5%)より低かった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

### 3. 野菜

(トマト)

#### (1) 疫病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月11日定植）では、平年同様発生を認めていない。

イ. 5月25～26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（3.1%）より低かった。

ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、発病を抑制する条件となる。

#### (2) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月11日定植）では、平年同様発生を認めていない。

イ. 5月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は42.9%で平年（39.0%）並であった。

ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、発病を抑制する条件となる。

#### (3) 葉かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月11日定植）では、平年同様発生を認めていない。

イ. 5月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は14.3%で平年（20.8%）よりやや低かった。

ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 本病の初発生時期（雨除け栽培トマトでは6月下旬～7月上旬）と病勢進展時期（7月下旬～8月上旬）に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

(キュウリ)

#### (1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年（29.6%）よりやや低かった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、発病を抑制する条件となる。

#### (2) 褐斑病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月25～26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（17.5%）より低かった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされて

おり、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 被害葉は初期に除去し、処分する。

イ. 岡山県下ではトップジンM水和剤耐性菌が広く確認されているが、ジマンダイセンフロアブル、ダコニール1000などによる病原菌感染前の予防散布が有効である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月25～26日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月25～26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(2.9%)より低かった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(2) コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬のフェロモントラップへの誘殺数は20頭で、平年(46.8頭)よりやや少なかった。

イ. 5月25～26日の巡回調査では発生を認めず、平年(発生圃場率：45.8%)より低かった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 **やや多**  
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は1,137頭で、平年(470.4頭)より多かった。

イ. 5月25～26日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年よりやや多かった。モザイク病は発生を認めず、発生圃場率は平年(キュウリ：2.5%、トマト：1.2%)よりやや低かった。

ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件となる。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月25～26日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、発生を助長する条件となる。

#### 4. 花 き

(キ ク)

##### (1) 白さび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 少

予報の根拠

ア. 5月25～26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（22.3%）より低かった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、発病を抑制する条件となる。

##### (2) ナミハダニ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月25～26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（2.5%）よりやや低かった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は高く、発生を助長する条件となる。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、  
[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。